

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	53299	源流の森づくり事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5 農林水産業費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3 林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 林業振興費		D	その他事業	
市長の約束	8	豊かな自然環境を守り、環境モデル都市をつくります ◎市民生活の中に自然環境を活かした街づくりを進めます ・森林等の自然環境を資源として守り活用するため、自治体・企業間交流等、都市部の自治体との連携等を実施します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	受益者数	60 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・自然・林業体験教室などのイベントを開催することによって、多面的な機能をもつ森林を大切にするという意識の高揚を図る		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の林業振興団体を中心としたイベント実行委員会に対して、イベント運営費負担金を交付するとともに、イベント運営を協働で行っている。 ・イベントは、6月下旬に「源流の森づくり」として開催している。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① イベント回数	回	回	目標値	2	2	1	1
			実績値	2	1	1	-
算出根拠等	イベント開催実績		達成率(%)	100	50	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① イベント参加者数	人	人	目標値	150	150	60	50
			実績値	83	64	47	-
算出根拠等	イベント参加者実績		達成率(%)	55	43	78	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	(A/B)	目標値	12,253	14,438	18,085	14,700
			実績値	83	64	47	50
算出根拠等	イベント開催1回あたり(円)		509,000	924,000	850,000	735,000	
算出根拠等	イベント経費/イベント回数						

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額
	歳出(千円)	(A) 1,017	924	850	735
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)	67	54	50	35
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)				
	一般財源	950	870	800	700

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられ、森と親しむ機会の充実を図ることで目標達成につながる。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・毎年、イベント「源流の森づくり」の参加者を募集しているが、地域の小学生を中心に依然としてある程度のニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・各種情報媒体を活用し、市域全体にイベント参加への情報を提供してしている。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	・イベント回数を平成22年度より年2回から年1回に見直し行っている。 ・イベント参加人数が減少傾向にあり目標値を達成していない。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効であるbあ	B	・市民に森と親しむ機会を提供することは、森林がもつ多面的な機能を理解する上で有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・イベント開催回数の見直しや林業・自然体験コースメニューの見直しを行っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・参加人数を増加させるために充実したイベントの開催が必要となっている ・イベント参加者は、市民がほとんどであるため市外の方が参加するような宣伝・告知など工夫が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・参加人数が少ないため割高のコストになっている ・充実したイベント開催のため、コストを下げるのではなく、参加が増えるような工夫が必要である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・当事業は、林業振興団体を中心とした実行委員会がイベントを開催している
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		10.0 / 20.0	100点換算	50 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・イベント内容の充実及び開催告知方法の検討				

総合評価(二次評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	800	700	△100	700	700
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	800	700	△100	700	700

予算要求の概要	第21回源流の森づくり開催に伴う負担金
要求額増減理由	事業内容の見直しによる減額
①支所	・参加人数が年々減少しているため、魅力ある内容の充実とPR強化を図り、事業効果を高める必要がある。
②本庁所管課(林務課)	・市民への啓発活動として重要であるが、事業内容等の見直しについて検討する必要がある。
地域政策課	
予算の主旨を鑑み、単なるイベント的なものとならないよう、自然環境教育の観点から内容を見直す必要がある。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	観光イベント開催事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	イベント参加者	受益者数	50,000 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	・通年型の観光イベントの開催によって、安定した観光客の誘客を図ることができ、地域の活性化が推進される。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の観光イベント実行委員会に対し、イベント運営費の負担金を交付するとともに、イベントの運営を協働で行っている。 ・イベントは、4月に「生きびなまつり」・「桜まつり」、8月中旬に「納涼夏祭り」及び1月中旬に「モンデウススペシャルホリデー」を開催している。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① イベント回数	回	回	目標値	6	5	4	4
			実績値	5	4	4	-
算出根拠等	イベント開催実績	達成率(%)	83	80	100	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① イベント参加者数	人	人	目標値	50,000	50,000	50,000	50,000
			実績値	51,604	56,300	50,000	-
算出根拠等	イベント参加者実績	達成率(%)	103	113	100	-	
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	(A/B)	目標値	72	62	60	60
			実績値	51,604	56,300	50,000	50,000
算出根拠等	観光イベント経費/イベント回数	達成率(%)	742,200	867,250	750,000	750,000	

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24	
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額	
	歳出(千円)	(A)	3,711	3,469	3,000	3,000
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)					
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
	一般財源		3,711	3,469	3,000	3,000

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられ、地域の観光振興の充実に図られることに結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・地域の特色ある観光イベントを開催しているため、市民および観光客からのニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・各種情報媒体を活用し、市域全体にイベント参加への情報を提供している
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・イベント回数を平成22年度より年5回から年4回に見直し行っている ・イベント参加人数は、概ね目標値を達成している
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・特色ある地域の観光イベントを開催することは、地域の観光振興や地域間交流の促進する上で有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・イベントは、春2回、夏1回、冬1回開催している。 ・将来残すべきイベントについて検討する必要がある
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・イベント回数の見直しや内容の充実などの検討を行っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・イベント回数の見直しなどにより、経費の効率化を図っているため、年々コスト減少しており概ね適正である
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・当事業は、実行委員会がイベントを開催している
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計	12.0 / 20.0		100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・イベント内容の充実及び開催告知方法の検討					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・地域主体の事業とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,000	3,000	0	2,800	2,800
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	3,000	3,000	0	2,800	2,800

予算要求の概要	イベント開催負担金
要求額増減理由	
①支所	・観光誘客型、住民交流型イベントとして位置づけ分類し、イベント内容や運営等の見直しを図る必要がある。 ・イベント内容の工夫や充実を図り、更なる観光誘客を図る必要がある。 ・イベント開催にかかる自己資金の確保にかかる新たな工夫や取組みが必要である。
②本庁所管課(観光課)	地域振興特別予算が平成26年度までの限定的制度であることから、今後、段階的に自己負担割合を増やしていき、地域で自主的に運営できるよう見直し必要がある。
地域政策課	合併前から実施している行事・イベントについては、今後の方向性について各事業の内容や地元負担割合等の精査を行うとともに、継続について、地域と十分協議する必要がある。 来場者とその属性、交通・景観・環境・衛生面など様々な視点から事業の効果、改善点を検証する必要がある。

財務部査定の考え方	地域振興計画額どおりとする
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94699	臥龍桜日本画大賞展開催事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3412
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
市長の約束	9	芸術文化を守り、次代へ継承します。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにもつながる芸術文化活動をさらに浸透させ広げていく。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> ・臥龍桜の名にちなんだ全国公募展覧会の開催で、国指定天然記念物「臥龍桜」の全国発信。 ・市民(小中学生、一般)が優れた芸術文化(絵画)に触れられる機会や参加機会の創出。 ・文化芸術への関心の高まりや人材発掘、育成を目指す。(小中学生等) ・全国規模の展覧会が開催される「文化都市・飛騨高山」の定着。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・全国の日本画家へ「臥龍桜日本画大賞展」への全国公募を行う。(会派を超えた著名画家・評論家による審査) ・小中学生部門を設け、審査会・展覧会を開催する。 ・市内のほか都市部での展覧会の開催。 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	全国公募による日本画展の応募作品数	点	目標値	400	400	400	400
			実績値	427	298	375	-
算出根拠等	応募作品数		達成率(%)	107	75	94	-
②	小中学生部門の応募者数	人	目標値	500	500	500	500
			実績値	730	521	479	-
算出根拠等	応募者数		達成率(%)	146	104	96	-
①	展覧会の一日当たり入場者数	人	目標値	100	100	100	100
			実績値	134	94	100	-
算出根拠等	入場者数/開催日		達成率(%)	134	94	100	-
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)	(A)	10,672	8,175	9,500	9,780	
	受益者負担(使用料・負担金等)		2,936	2,065	1,900	1,900	
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源		7,736	6,110	7,600	7,880		
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	113	87	102	105
			実績値	94,235	93,822	93,312	93,312
	② 応募作品1点あたり(円)	(B)	目標値	9,224	9,982	11,124	10,866
実績値							
算出根拠等	事業経費/応募作品数						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・地域振興計画・市長公約に位置付けられ、事業推進は芸術文化に対する人材育成、発掘や地域資源の全国発信への意味合いが強く、目的達成に結びつく。 ・臥龍桜の全国PR効果は非常に高い。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・絵画(日本画)に興味を持ち、本展覧会を毎年楽しみにしている多くの市民がみえることから、ある程度のニーズがある。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	・優れた日本画を鑑賞し、楽しむ機会が増える。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・日本画展の応募者や展覧会の入場者数も順調に推移しており、概ね達成している。 ・満開の臥龍桜の見学者も毎年数多く来場している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	・市内小中学生部門を実施することで、子供たちの絵画への興味や関心のアップと人材育成には有効的である。 ・都市部での展覧会開催は、本展覧会と臥龍桜の知名度アップに有効的である。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・全国公募による応募者数や展覧会入場数を増やすため、さらに宣伝手法を工夫していく必要がある。(応募方法、PR媒体の検討等)
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	C	・賞金額や審査員報酬、展覧会開催手法等の更なるコスト削減に向けた検討が必要である。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・誰にも優れた芸術文化に触れる機会を提供する上では、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・応募者数や入場者数は順調に推移しているが、更なるコスト削減を検討する必要がある。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・入賞賞金の在り方の検討 ・PR手法の検討 				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・市美術展覧会、木版画ビエンナーレ(隔年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。 				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	9,500	9,780	280	9,400	9,400
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他	1,900	1,900	0	1,900	1,900
地域振興特別予算	7,600	7,880	280	7,500	7,500

予算要求の概要	第23回臥龍桜日本画大賞展の開催経費
要求額増減理由	作品輸送料等の増
①支所	
国指定天然記念物「臥龍桜」「文化都市・飛騨高山」の知名度アップや市民の芸術への関心の高まりが期待できるので、一般予算への移行を検討する必要がある。	
②本庁所管課(生涯学習課)	
臥龍桜日本画大賞展は、他の公募展に比べ多額の経費がかかっている。他の公募展との関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施手法、経費の節減等について検討する必要がある。	
地域政策課	
市が事業主催者となっていることについて、今後の事業のあり方とともに検討が必要である。	

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94699	飛騨位山文化交流館 美術展覧会事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
市長の約束	9	芸術文化を守り、次代へ継承します。 ・心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにも つながる芸術文化活動をさらに浸透させ広げていく。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> ・日本画展による市所蔵作品や審査員の作品を鑑賞する機会から、臥龍桜日本画大賞展の知名度アップを図る。 ・市所蔵作品の有効活用。 ・国指定天然記念物「臥龍桜」のPR。 ・幅広く文化芸術に触れる機会の創出。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回からの大賞作品や歴代審査員の優れた日本画の展覧会開催。 ・国指定天然記念物「臥龍桜」の満開時期に合わせた展覧会の開催。 ・日本画のみならず、幅広い分野の芸術展の開催。 		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 展覧会の開催日数	人	算出根拠等	目標値	17	17	17	17
			実績値	17	17	19	-
算出根拠等	日数	達成率(%)	H21	100	100	112	-
			H22				
②	算出根拠等	達成率(%)	H21				
			H22				
① 開催期間中の入場者数	人	算出根拠等	目標値	650	650	650	650
			実績値	847	566	557	-
算出根拠等	入場者数	達成率(%)	H21	130	87	86	-
			H22				
②	算出根拠等	達成率(%)	H21				
			H22				

コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	受益者1件当たり (円)	(A/B)	目標値	2	2	4	4
			実績値	94,235	93,822	93,312	93,312
②	入場者数1名あたり(円)	(B)	目標値	242	253	592	508
			実績値				
算出根拠等	事業経費/入場者数						

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24	
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額	
①	歳出 (千円)	(A)	205	143	330	330
			205	143	330	330
②	受益者負担(使用料・負担金等)	(B)				
③	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	(C)				
④	一般財源	(D)	205	143	330	330
			205	143	330	330

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けされ、市長公約にもある「伝統文化を守り、次代へ継承します。」との目的達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・全国的にも有名な画家の作品や日本画展大賞作品等の優れた作品との触れる機会を期待している市民も多く、ある程度のニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・展覧会の開催により、日本画展に開催する所蔵作品や有名画家の作品に触れられ、市民の芸術文化への関心が高まる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・展覧会の入場者数も順調に推移しており、概ね達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・臥龍桜の開花時期に合わせた開催で、相乗効果が出ている。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・開催期間中は、展覧会場の休館を無くした。「臥龍桜」への来訪者に対する開催周知を工夫した。(開催場所、ルート等)
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・受付や会場設営等については、日本画大賞展実行委員会メンバーのボランティアの協力でコスト削減に取り組んだ。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・コスト削減に努め、必要最小限の経費で実施しているため、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・市所蔵の美術品の展覧会であることから、市で事業実施する必要があるものの、ボランティア導入で成果に対するコストは概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		17.0 / 20.0	100点換算 → 85 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	○				
<ul style="list-style-type: none"> ・国指定天然記念物「臥龍桜」の満開時に開催し、観桜者へのPR方法の充実をさらに務める。 ・臥龍桜の開花と併せて楽しんでいただける新たな展覧会の企画に努める。 					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・市美術展覧会、木版画ビエンナーレ(隔年)を合わせた3つの公募展の関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施方法等について検討する必要がある。 					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	330	330	0	330	330
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	330	330	0	330	330

予算要求の概要	臥龍桜日本画大賞展「特別企画展」の開催経費
要求額増減理由	
①支所	効果的な誘客方法を検討する必要がある。
②本庁所管課(生涯学習課)	臥龍桜日本画大賞展は、他の公募展に比べ多額の経費がかかっている。他の公募展との関連や位置づけ、市民を巻き込んだ実施手法、経費の節減等について検討する必要がある。
地域政策課	
市が事業主催者となっていることについて、今後の事業のあり方とともに検討が必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 (全日本選抜ローラースキーみや大会)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市内のクロスカントリー選手、一之宮町民	受益者数	2,667 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> ・クロスカントリー選手の裾野を広げ、選手の育成・強化を図るための夏期強化の大会として開催。 ・県スキー連盟と地域が一体となった運営体制を整えることで、地域の若者らの運営参加を促し、地域活力の向上を図る。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット等を活用した全国PRでの参加選手の募集。 ・大会は関係者と地域ボランティアとが協力して運営。 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	出場者数	人	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等	参加者数	目標値		180	180	180	180	
		実績値		186	181	147	-	
算出根拠等	達成率(%)	H21		103	101	82	-	
		H22						
成果指標	②	出場者数前年比率	人	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数	目標値		100	100	100	100	
		実績値		81	97	81	-	
算出根拠等	達成率(%)	H21		81	97	81	-	
		H22						
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
歳出(千円)				(A)	900	850	800	750
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源					900	850	800	750
コスト面				H21	H22	H23見込	H24計画	
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	339	316	300	281		
			受益者	一之宮町民	(B)	2,658	2,690	2,667
②	出場者1名あたり(円)		4,839	4,696	5,442	4,167		
			算出根拠等	事業経費/出場者数				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられ、地域の一体感の醸成や地域活力の向上を図る観点から重要な事業である。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・地元(市内)からの参加者もあり、ある程度のニーズはある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・地元(市内)の参加者もあること、また市内のクロスカントリーを志す子供たちに対する大会である観点から、概ね市民全体におよぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・参加者も順調に推移しており、概ね成果は達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・インターネットの活用や県スキー連盟とのタイアップで参加者を募集しているため、概ね有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・地元(市内)の選手に、より多くの選手が参加してもらえるよう、PRに取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・大会スタッフは、市民ボランティアで取り組んでいる。 ・協賛金の応募に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	C	・市内選手の参加増への取組み、工夫が必要である。 ・協賛金の応募に取り組んでいる。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・大会スタッフは、市民ボランティアで取り組んでいる。 ・協賛金の応募に取り組んでいる。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		10.0 / 20.0	100点換算 → 50 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・事務局体制の移行と合わせて、自主運営による事業の在り方を検討しながら予算の縮小を図っていく。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	800	750	△ 50	750	750
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	800	750	△ 50	750	750

予算要求の概要	全日本選抜ローラースキーみや大会開催負担金
要求額増減理由	計画に基づく減
①支所	実行委員会事務局体制の確立と自主財源の確保による自主事業に向けた展開が必要である。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 (川上岳登山)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 登山を通じた健康増進 宮川源流域の自然環境への保護意識の高揚と森林環境の重要性が認識できる事業とする。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 川上岳山頂までの登山を行う。(片道1時間30分) 体育指導員とNPO(環境保護、文化伝承等)とがタイアップした実行委員会による開催。(補助事業) 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 参加者数	参加者数	人	目標値	60	60	60	60
			実績値	63	60	74	-
算出根拠等	参加者数		達成率(%)	105	100	123	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 参加者数前年比	参加者数前年比	人	目標値	60	60	60	60
			実績値	63	60	74	-
算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数		達成率(%)	107	95	123	-
コスト指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 参加者1名あたり(円)	参加者1名あたり(円)	(A/B)	目標値	1	1	1	1
			実績値	94,235	93,822	93,312	93,312
算出根拠等	事業経費/参加者		達成率(%)	1,841	1,500	1,081	1,167

コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)	H21	H22	H23	H24		
		決算額	決算見込額	予算額	実施計画額		
	歳出(千円)	(A) 116	90	80	70		
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源	116	90	80	70		
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
			目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
① 受益者1人あたり(円)	受益者1人あたり(円)	(A/B)	目標値	1	1	1	1
			実績値	94,235	93,822	93,312	93,312
② 参加者1名あたり(円)	参加者1名あたり(円)	(B)	目標値	1,841	1,500	1,081	1,167
			実績値	94,235	93,822	93,312	93,312
算出根拠等	事業経費/参加者		達成率(%)	1,841	1,500	1,081	1,167

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けされており、市民の健康づくりや源流域の自然環境への愛護精神の醸成につながる。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・健康志向の高まりから、「登山」に対するニーズは依然として多い。 ・定員を超える応募がある。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・気軽に誰もが参加できる登山の機会を提供していることから、概ね市民全体に効果が及ぶ。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・定員を超える応募があるので十分に達成している。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・定員を超える応募があるので、活動内容は十分に有効である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・事務局の体制整備が必要である。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・実行委員会の自主運営を目指して、負担金の改善を行っている。(参加料の見直し)	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・参加料の徴収により、市負担金の削減に努めているので、受益者1人当たりのコストは適正である。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・最小限の経費で、効果は上がっている。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		16.0 / 20.0	100点換算		80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針 (担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> 実行委員会による自主事業としての取組体制を確立。 参加料金の検討で負担金の減額を図る。 					

総合評価 (二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費 (人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部 調整額	市長 査定額
歳出(千円)	80	70	△10	70	70
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	80	70	△10	70	70

予算要求の概要	川上岳登山事業負担金
要求額増減理由	計画に基づく減
①支所	実行委員会の自主事業としての展開が必要である。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	<ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。 現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業 (モンデウススキー大会開催事業)	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	○ A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(ジュニア:7歳~15歳 シニア:40歳~)	受益者数	400 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> ・モンデウススキー場への誘客促進。 ・子どもから大人までのスキー人口の増加。 ・市民(40歳以上)の体力増進・維持。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・ジュニアスキー大会の開催 ・シニアスキー大会の開催 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		大会参加者数(ジュニアスキー大会)	人	目標値	300	300	300	300
算出根拠等	参加者数	達成率(%)	79	69	83	-	-	
成果面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		大会参加者数(シニアスキー大会)	人	目標値	150	150	150	150
算出根拠等	参加者数	達成率(%)	87	68	100	-	-	
成果指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		参加者数前年比(ジュニアスキー大会)	%	目標値	100	100	100	100
算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数	達成率(%)	88	87	120	-	-	
コスト面	②	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		参加者数前年比(シニアスキー大会)	%	目標値	100	100	100	100
算出根拠等	当年度参加者数/前年度参加者数	達成率(%)	97	78	147	-	-	
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)					H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)					(A) 1,100	1,000	900	800
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源					1,100	1,000	900	800
コスト指標	①	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
		受益者1件当たり(円)	(A/B)	2,989	3,226	2,250	2,000	
算出根拠等	受益者	大会参加者	(B)	368	310	400	400	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けされており、市民の健康づくりとモンデウススキー場への誘客促進に結びつく。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・スキー人口減少の中においては、安定的な参加者があることから、ある程度のニーズがあると判断できる。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	・スキー競技者や愛好者に限定されている。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・参加者は安定的にあるので、概ね達成されている	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・実行委員会が運営しており、事業の継続性については概ね有効である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・実行委員会の自主事業として、市に頼らない運営方法、改善を検討している。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・自主運営に向け、自主財源の確保に取り組んでいる。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・金額的には概ね適正であると考えられるが、参加者が限定されることを考えると改善の余地もある。・協賛金やスポンサー等を確保する必要がある。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・実行委員会の自主財源の確保という点から、市の負担金の改善も多少必要である。・協賛金やスポンサー等を確保する必要がある。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計			10.0 / 20.0	100点換算	50 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会による自主事業としての組織体制を構築。 ・参加者からの参加料の徴収と新たなスポンサーの確保等で負担金の減額を図る。 					
総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。 					
議会からの提言等						

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	900	800	△100	800	800
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	900	800	△100	800	800

予算要求の概要	モンデウススキー大会開催負担金
要求額増減理由	計画に基づく減
①支所	地元密着の事業として、地域主体で実施されているが、参加料などの自主財源確保が必要である。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	31399	地域老人福祉推進事業費 (老人クラブ活動費助成事業)	内線 3411
支番			
会計	1	一般会計	
款	3	民生費	
項	1	社会福祉費	
目	3	老人福祉費	
市長の約束	5	医療・福祉を充実させます 地域住民が互いに支えあう仕組みや、緊急時の支援を万全にするため、独居老人、要援護者等への地域福祉体制を整備します。	

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	60歳以上の市民で構成される単位老人クラブ及び連合組織	受益者数	9,796 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	明るい長寿社会と豊かな老後を目指す。		
概要	事業の実施手法(手段)	高齢者の生きがいと健康づくり、また高齢社会を支える上で大きな役割を担っている老人クラブに対し、福祉の向上のために助成し、老人クラブを通じて各種活動の育成、支援を行う。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント	老人クラブに加入しやすい体制の構築に向け、組織や活動の見直しを促しており、役員会等で検討中である。		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 会員数		人	目標値	11,474	10,500	11,100	11,600
算出根拠等	実績値/目標値			実績値	11,474	10,405	9,796	-
	達成率(%)				100	99	88	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 単位老人クラブ数		人	目標値	159	150	150	143
算出根拠等	実績値/目標値			実績値	159	150	143	-
	達成率(%)				100	100	95	-
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 加入率		%	目標値	46.8	42.0	43.0	44.0
算出根拠等	実績値/目標値			実績値	46.7	41.7	39.3	-
	達成率(%)				100	99	91	-
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)		目標値	730	729	753	753
算出根拠等	実績値			実績値	575	576	558	558
	達成率(%)							-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)		(A)	420	420	420	420	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)			171	163	280	280	
一般財源			249	257	140	140		
コスト面	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者	一之宮区会員数(4月1日現在)(B)		730	729	753	753	
算出根拠等				575	576	558	558	

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	総合計画・市長公約に位置付けられ、高齢者を中心に地域住民が互いに支えあう仕組みとして、老人クラブの活動は、地域福祉体制づくりの一つであり、有意義な政策である。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	A	高齢者の方が健康でいきいきとした生活を送るために老人クラブ活動は重要な施策であり、老人クラブからの補助金の増額について、強い要望もある。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	健康で活躍する高齢者が増加することにより、地域の活性化につながる。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	近年の老人クラブ加入者の減少は、高齢者の趣味や考えの多様化したことによるものである。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	高齢者が主体となって健康づくりや地域交流などの自主的な運営を支援している。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	役員会等により、組織や活動の見直しに取り組んでいる。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	補助金の額は、会員数及び単位老人クラブ数により、算出するため。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計		16.0 / 20.0	100点換算 → 80 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 本補助金を有効に活用するため、老人クラブにおける活動内容の見直しを進めながら、事業継続し、活動の育成と支援を行う。 地域振興特別予算(31399事業)の老人クラブ活動費補助金の一本化を図る。 				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	<ul style="list-style-type: none"> 平成22年度事業評価において、老人クラブ(連合長寿会)の加入率は低下していることから、長寿会に加入しやすい体制の構築を促すなどの取組みが必要であるとの指摘をしているところであるが、連合長寿会に加盟しない地区もあり、事業効果が高齢者全体に及んでいないようになってきていることから、地域としての必要性も含め、今後のあり方についても検討する必要がある。 				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	420	420	0	420	420
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金	280	280	0	280	280
起債					
その他					
地域振興特別予算	140	140	0	140	140

予算要求の概要	長寿会事務局設置に係る助成経費
要求額増減理由	
①支所	高齢者の地域活動を推進するために引き続き支援する必要がある。
②本庁所管課(高年介護課)	地域を基盤とした老後の社会活動の円滑な展開とまちづくりへの高齢者の参画を支援し、老人クラブの活動をより一層充実した取組みにするため、一般予算(31336事業 老人クラブ活動費補助金)へ移行する必要がある。
地域政策課	
支所地域の老人クラブへの補助は人件費を補助対象としているため、早急に高山地域と同条件となるよう調整し、一般予算化の検討が必要である。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21899	巨樹巨木保護管理事業		担当課	一之宮支所 基盤産業課		内線	3431
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	18	環境政策費		D	その他事業		
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民(登山者・観光客)	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を代表する巨樹・巨木にふれあうことによって、希少かつ貴重な自然遺産を守り生かすという意識の高揚を図る ・新たな観光スポットとして創出を図る 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> ・巨樹・巨木周辺にセラミック炭を散布し土壌改良を行うことによって適正な管理を行う ・巨樹・巨木保護柵の改修や草刈など生育環境の整備を行い、巨樹・巨木とのふれあいの場を整備する。 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① セラミック炭散布回数	回	算出根拠等	目標値	1	1	1	1
			実績値	1	1	1	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 草刈回数	回	算出根拠等	目標値	1	1	1	1
			実績値	1	1	1	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	(A)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
				370	287	370	380
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト指標	一般財源			370	287	370	380
	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	4	3	4	4	
	受益者	市民(登山者・観光客)(B)	94,235	93,822	93,312	93,312	
②	算出根拠等						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられ、希少かつ貴重な自然遺産を守り活かすという意識の高揚が図られることで目標達成に結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	・「源流の森づくり事業」と連携して行っているため、イベント参加者や位山・川上岳登山者を中心にある程度のニーズがある。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	・位山・川上岳の登山ガイドリーフレットを活用し、市民・登山者・観光客に巨樹・巨木植生箇所の情報を提供している。 ・現地には、巨樹巨木の案内・概要看板や遊歩道などを整備している
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	A	・巨樹・巨木の適正な管理を行う上で、活動指標は目標を達成されている。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	・市民などに巨樹・巨木の情報を提供することは、希少かつ貴重な自然遺産の大切さを理解する上で有効である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	・「いのちの森づくり」の考え方に即した管理手法の検討が必要である ・例えば、草刈りに関して巨樹・巨木周辺を全部行うのではなく、共生という考え方にも配慮することが必要である
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	・コスト削減に向けて、地域の林業振興団体等への委託などの検討が必要である。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	・全市民に貴重な自然資源を紹介し、環境保全への意識を高揚させる事業としては、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	・委託可能な作業については委託化を推進するが、管理手法等については、有識者等の指導の下、適正に実施する必要がある。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・外部委託も含め、適正な管理手法を検討				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	自然環境の保全についての市の関わり方について整理する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	370	380	10	370	370
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	370	380	10	370	370

予算要求の概要	巨樹・巨木の保護経費
要求額増減理由	
①支所	・「いのちの森づくり」の考え方に即した新たな管理手法を検討する必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要であるとともに、保護管理手法についても、改めて再検討する必要がある。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21899	自然生態系保全事業		担当課	一之宮支所 基盤産業課		内線	3431
予算	会計	1	一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	2	総務費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	1	総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	18	環境政策費		D	その他事業		
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域を埋める桜や希少かつ貴重なバイカモを守り活かし、新たな観光スポットとして創出を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の自然保護団体に対して、桜やバイカモの保護・管理運営費に対し補助金を助成している。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 自然保護団体数			団体	目標値	2	2	2
		実績値	2		2	2	-	
算出根拠等	団体数実績			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
②				実績値				-
				達成率(%)				-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
①				実績値				-
				達成率(%)				-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
②				実績値				-
				達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)				(A) 498	277	272	272
	受益者負担(使用料・負担金等)				368	167	142	142
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源				130	110	130	130
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	5	3	3	3	3
		受益者	市民	(B)	94,235	93,822	93,312	93,312
	②							
					達成率(%)			

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられており、希少かつ貴重な自然遺産を守るという意識の高揚が図られ、新たな観光スポットとしての創出で目的達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・地域には約1,000本の桜が植樹されており、桜が舞う美しい農村風景を楽しむ観光客が増加傾向にある。 ・清流を象徴するバイカモの保護意識が高まっているため、町内会ぐるみで保護管理している。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・桜並木、バイカモの開花状況などについて積極的な情報発信が必要である。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・年間を通じて、保護団体が保護活動を行っている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・桜の保護管理については、「桜の里づくり事業」との調整が必要である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・桜やバイカモの保護管理について保護団体の高齢化が課題となっているため、地域と連携した取り組みへの工夫が必要である。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・バイカモについては、新たに地元NPOの協力が得られているが、桜も含め地域全体で保護管理することも検討する必要がある。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・当事業は、地域を代表する桜・バイカモを守り活かすという事業性質から判断して、概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・当事業は、自然保護団体が実施しており、効率的な事業推進で成果に対するコストは概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算 → 65 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・地域全体での取り組みとして検討				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・様々な自然環境保全に取り組む地域団体等があるなかで、特定の団体(自然環境)に支援する考え方を整理する必要がある。 ・価値を検証する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	130	130	0	130	130
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	130	130	0	130	130

予算要求の概要	自然環境保護活動に対する助成
要求額増減理由	
①支所	・保護活動団体の高齢化が進んでいるため、地域と連携した取り組みへの工夫が必要である。
②本庁所管課(地域政策課)	
地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。	
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	61199	位山交流促進センター管理事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 商工費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 商工振興費		D	その他事業	
市長の約束	2	商工業・地場産業をさらに発展させます ◎モノづくり上手で売り上手な産業を育成します ・将来の地域経済を支える継続的な振興を図るため、高速交通網や広大な市域の特性を活かした新しい産業育成に取り組み、新規常雇用者の増加を目指します				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	施設利用者数	受益者数	55,000 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・道の駅の付帯施設として、施設の適正な管理に努め、交流人口の増大を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・道の駅の付帯施設として、地域経済活動の拠点施設としての利用促進・収益拡大を図る。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等		目標値					
		実績値					
		達成率(%)					-
成果指標	②	指標名	単位	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等		目標値					
		実績値					-
		達成率(%)					-
成果指標	①	施設利用者数	人	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等		目標値		65,000	62,000	55,000	55,000
		実績値		62,644	54,952	55,000	-
		達成率(%)		96	89	100	-
コスト面	①	指標名	単位	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等		目標値					
		実績値					-
		達成率(%)					-
コスト面	②	受益者1件当たり (円)	(A/B)	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等		128		146	145	145	145
		62,644		54,952	55,000	55,000	55,000
		達成率(%)					-

財務内訳	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				
	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
歳出 (千円)	(A) 8,000	8,000	8,000	8,000	
受益者負担(使用料・負担金等)					
その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源	8,000	8,000	8,000	8,000	

コスト面	①	指標名	単位	目標・実績			
				H21	H22	H23見込	H24計画
算出根拠等		受益者1件当たり (円)	(A/B)	128	146	145	145
		受益者 施設利用者数	(B)	62,644	54,952	55,000	55,000
		達成率(%)					-

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられており、地域の商工業振興の充実が図られていることで目標達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	C	・冬季にはある程度のニーズは見込めるものの、それ以外のニーズは少ない。 ・周辺公園(合併記念公園)への集客に向けた工夫、対策が急務。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・施設利用者は、減少傾向にある。 ・周辺公園(合併記念公園)への集客に向けた工夫、対策が急務。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・施設利用者は、概ね目標を達成しているが、冬季利用者が殆どを占めている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	C	・道の駅としての機能が十分に発揮されていない。 ・周辺公園(合併記念公園)への集客に向けた工夫、対策が急務。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・一之宮地域力推進事業を活用しながら、活性化対策を検討している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・経費節減のため、節電などコスト削減を図っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・冬季以外の利用者が増大すれば、より適正化が図れる。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・年間を通して集客できる工夫が必要である。 ・夏場の経費削減策(人件費含む)の検討が必要。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		9.0 / 20.0	100点換算 → 45 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・年間を通して施設利用者が増加するような取り組みの検討				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・老朽化や採算面から厳しさが増しており、他のスキー場とも関連した今後のあり方などについて検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	8,000	8,000	0	8,000	8,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	8,000	8,000	0	8,000	8,000

予算要求の概要	管理委託料
要求額増減理由	
①支所	
誘客促進に向けた施設の利活用方針を検討する必要がある。	
②本庁所管課(商工課)	
赤字施設であるため、経営改善及び施設の方向性の検討が必要である。	
地域政策課	
利用状況・経営状況を踏まえ、施設の在り方や活用方針について、検討する必要がある。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	72199	地域道路橋りょう管理振興事業費 (市道未登記用地測量事業)	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 道路橋りょう費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 道路橋りょう総務費		O	D その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
目的	どういった状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 未登記路線の整備(旧町村時代に未登記のまま道路整備した路線の登記整理) 市道内にある民地を市へ所有権移転することにより、市道の適正な管理を図る。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 市道未登記箇所の確定測量を行い、登記関係書類を作成し、所有者から寄付により道路用地として高山市の所有権移転登記を行う。 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 完了路線数	路線	路線	目標値	7	1	1	1
			実績値	7	0	1	1
算出根拠等	路線	達成率(%)		100	0	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)					-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 登記完了路線率(全12路線)		%	目標値	60	67	75	83
			実績値	58	58	67	-
算出根拠等	完了路線数/全路線	達成率(%)		97	87	89	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等		達成率(%)					-
事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				66	0	500	500
財源内訳							
受益者負担(使用料・負担金等)							
その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
一般財源				66	0	500	500
コスト面				H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	25			190	190
				受益者	一之宮町民	(B)	2,623
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	B	・地域振興計画に位置付けられており、事業の推進は将来にわたり、市民の道路確保への安心感につながり重要な政策である。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・重要性が高い事業であるが、問題が起きないような交渉等対策が必要
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・事業の達成は、道路利用者である市民全体に効果が及ぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・相続問題や寄付に理解が得られない路線が残っているため、目標を達成していない。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・全市的に土地家屋調査士会との連携のもと、統一的な事業推進を行っており、目標達成に有効的である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・境界や所有権、相続等の各種問題がある路線の登記完了に苦慮している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・全市的に土地家屋調査士会との連携のもと、統一的な事業推進を行っており、コスト削減を図っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	A	・将来にわたる道路確保の安心感の観点からすれば、一人あたりのコストは適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・将来にわたる道路確保の安心感の観点からすれば、一人あたりのコストは適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		15.0 / 20.0	100点換算 → 75 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・効率的に未登記路線の解消を図るため継続する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・H26までに重要路線の未登記処理を解消できるように取り組んでいく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	500	500	0	500	500
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	500	500	0	500	500

予算要求の概要	・市道未登記用地の調査、測量、登記に要する費用
要求額増減理由	
①支所	
	・地権者の合意が得られない物件や相続人が多数の物件、不明事項が存在する物件等の処理に時間を要する
②本庁所管課(維持課)	
	市道未登記路線の処理については、年次計画に基づき積極的に業務委託を発注し未登記路線の解消に努める必要がある
地域政策課	
	地域振興特別予算措置期間に完了することが必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	74599	地域景観保全振興事業 (桜の里づくり)	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	7 土木費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 都市計画費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	5 景観保全総務費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域の象徴となっている桜を適正に管理することで、桜景観の保全や「桜の里づくり」に対する意識の醸成を図る。 ・桜景観を楽しむ来訪者の増加。		
概要	事業の実施手法(手段)	・桜の補植、防除及び施肥を実施することにより適正な管理を行う。		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	桜維持管理本数	本	目標値	1,000	1,000	1,100	1,100	
実績値		1,000	1,000	1,000	-				
算出根拠等	維持管理本数/管理を必要とする本		達成率(%)	100	100	91	-		
成果面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	②			目標値					
実績値									
算出根拠等			達成率(%)						
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	①			目標値					
実績値									
算出根拠等			達成率(%)						
②			目標値						
	実績値								
算出根拠等			達成率(%)						
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)				(A)	1,069	1,069	1,400	2,700
	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	11	11	15	29		
		受益者	(B)	94,235	93,822	93,312	93,312		
	算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

必要性	評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
		A(2)	B(1)		
①	事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられており、「桜の里づくり」への意識の高揚が図られ、桜景観を楽しむ来訪者の増加につなげることで、目標達成に結びつく。
		B(1)	一部結びつく		
		C(0)	結びつかない		
②	事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・地域には約1,000本の桜が植樹されており、桜が舞う美しい農村風景を楽しむ観光客が増加傾向にある。
		B(1)	ある程度のニーズがある		
		C(0)	少ない、減少している		
③	事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・国指定天然記念物「臥龍のサクラ」のみならず、桜並木等についての開花状況などを積極的に情報発信する必要がある。 ・「桜の里」としての魅力発信が必要である。
		B(1)	概ね市民全体におよぶ		
		C(0)	わずかな受益者に限定される		
④	事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・桜の維持管理本数について、概ね達成されている。
		B(1)	概ね達成している (75%以上)		
		C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤	成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・桜の健全管理は、「桜の里づくり」には有効であるが、防除に対する管理手法の工夫が必要である。
		B(1)	概ね有効である		
		C(0)	見直しが必要である		
⑥	事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・防除に関して、消毒回数や頻度、時期など、効果的な管理手法の工夫が必要である。
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
		C(0)	対応していない		
⑦	コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・桜の生育状況にあった管理を行うことで、コスト削減を図っている。
		B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
		C(0)	対応していない		
⑧	受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・「桜の里づくり」による地域の景観保全への観点と来訪者が増加傾向にあることから、概ね適正である。
		B(1)	概ね適正である		
		C(0)	改善が必要である		
⑨	成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・外部委託の検討も必要である。
		B(2)	概ね適正である		
		C(0)	改善が必要である		
合計		12.0 / 20.0		100点換算 → 60 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・外部委託も含め、適正な管理手法を検討。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・臥龍桜を中心とした「桜の里づくり」は一之宮地域の地域振興となっているが、事業の継続については他の地域及び類似事業とのバランスを考えると今後の適正な管理手法を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,400	2,700	1,300	2,600	2,600
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,400	2,700	1,300	2,600	2,600

予算要求の概要	樹木管理委託料 間伐工事 剪定工事
要求額増減理由	間伐工事の拡大
①支所	・毛虫の防除に関して、効果的・効率的な管理手法の検討が必要である。 ・適正な生長を促すための、管理手法の定着化が必要である。
②本庁所管課(都市整備課)	桜の木の毛虫防除は一之宮支所管内のみの問題だけでなく、全市的に管理手法の検討が必要
地域政策課	
	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94199	花いっぱい運動事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 社会教育総務費		D	その他事業	
市長の約束	4	個人・家庭・地域を大切にすることを築きます。 市民が幸せな家庭生活を送り、安心して暮らせる地域を築くため、地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業の予算枠を確保します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民	受益者数	2,634 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 花づくりを通して、美しい地域づくりを町民みんなで取り組み、地域の絆を深め、豊かな心の育成を進める。 地域のみんなが花壇づくりに参加して、地域コミュニティの醸成を図る。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 一之宮町町内会へ花苗・肥料等の配付を行う。(19班) 一之宮地区子ども会へ花苗・肥料等の配付を行う。(14子供会) 宮保育園保護者会等へ花苗の配付を行う。(4団体) [花壇づくり講習会:5月中旬、肥料・農業配付:6月上旬、花苗配付:6月中旬、審査会:9月中～下旬]		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
① 花壇箇所数	箇所	箇所	目標値	38	37	37	37
			実績値	38	37	37	-
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	株	株	目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	歳出(千円)	(A)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
				376	360	470	470
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)	その他特定財源(国・県支出金・起債等)	一般財源	376	360	470	470
コスト指標	指標名	単位	H21	H22	H23見込	H24計画	
							目標・実績
①	受益者1人当たり(円)	(A/B)	143	135	178	178	
		受益者 一之宮町民 (B)	2,623	2,657	2,634	2,634	
②	1花壇あたり(円)		9,895	9,730	12,703	12,703	
算出根拠等	事業経費/花壇数						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられ、市長公約にもある「地域の自主的なコミュニティ活動や環境整備事業が図られる。」という点から目標達成に結びつく。 ・市民憲章推進にもつながる。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	A	・花いっぱい事業は、市民活動の一環として地域に定着しており、町内会や子ども会のニーズは高い。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	A	・花を育て、美しい環境を整えることや地域コミュニティの向上に対する意識効果は市民全体に及ぶものである。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・市民ニーズの高まりにより、目標数値を概ね達成している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	B	・花いっぱい運動の推進のためには、安価で多くの購入が可能であるので、概ね有効である。 ・班単位、子ども会の小規模単位での取組みであるため、地域コミュニティの活性化に有効的である。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	・活動単位である町内会や子ども会のニーズにマッチした花植えができていて、特に課題はない。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・注文本数の少ない花の種類は取りやめている。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・町民の憩いの場、コミュニケーションの場となることから、概ね適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・地域全体で花いっぱい運動を進めていることから考えると投入コストは適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	17.0 / 20.0	100点換算	85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・地域の花いっぱい運動を進めていくためにも、このまま継続していく。				

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○ 縮小	廃止の検討	完了
	・「花いっぱい運動」に対しては、当該地域振興予算のほか、一般予算による補助金(市民憲章推進事業補助金、特色ある地区活動事業補助金等)が直接・間接に助成されており、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方を再検討するとともに、事業費規模などについても検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	470	470	0	470	470
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	470	470	0	470	470

予算要求の概要	花苗、肥料代、講習会や審査会開催にかかる経費
要求額増減理由	
①支所	一般予算との整理に向けた検討が必要である。
②本庁所管課(市民活動推進課)	地域社会教育推進事業は、花いっぱい運動に係る経費として全支所地域において地域振興特別予算に計上されており、管理委託や花苗等の配布等、地域によって異なっている。 現在、市民憲章推進協議会が実施している花いっぱい運動に対する助成等類似事業との関係を整理しているところであり、当面、当該事業を継続するなかで、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94699	地域文化振興事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3412
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	6 文化振興費		D	その他事業	
市長の約束	9	心の中の生活に潤いと豊かさを醸し出し、生きがいや、若者の社会参加へのやる気づくりにつながる芸術文化活動をさらに浸透させ広げていく。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・優れた芸術文化に触れる機会を充実させる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・著名人を講師として招聘し、講演会等を開催する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 講演会開催回数	目標値		回		1	1	1
実績値				1	1	1	-	
算出根拠等		回数	達成率(%)		100	100	100	-
指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
②	目標値							
	実績値							-
	算出根拠等	申込者数	達成率(%)					-
	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
① 講演会入場者数	目標値		人		350	350	350	350
	実績値				400	300	350	-
	算出根拠等	申込者数	達成率(%)		114	86	100	-
	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
②	目標値							
	実績値							-
	算出根拠等		達成率(%)					-
	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)		(A)	1,000	800	1,000	1,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト指標	一般財源			1,000	800	1,000	1,000	
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	11	9	11	11	
		受益者	市民	(B)	94,235	93,822	93,312	93,312
②	入場者1名あたり(円)		2,500	2,667	2,857	2,857		
	算出根拠等	事業経費/入場者数						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、市民の心の中や生活に潤いと豊かさを醸し出す、市長公約の達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・全国的に名の知れた著名人を講演者として招聘していることで、会場には立見客がでるほどの来場者がある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・一之宮地域での開催ではあるが、市内全域へ開催PRしているため、一之宮町以外からの参加者も多く、概ね市民全体に及んでいる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・会場の席数を超える参加者があり、概ね達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・事業主体となっている社教では、より多くの参加者を得ようと、講演者選定には市民ニーズとマッチさせるための熟慮、検討しており、概ね有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・地域の絆づくりを高めるため、ニーズにあった講演者の選定を考えている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・入場料等の自主財源の確保に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・全市民を対象とした講演会ということから概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・講演者の選定により来場者数が左右されるが、ニーズにあった講演者の選定ができていて、概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算 → 65 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・市民ニーズや事業目的に合う講演者の選定を行うこと前提に、同様に実施していく。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・全市民的なバランスのなかから、地域振興特別予算の終期も踏まえた助成のあり方の再検討や事業費規模などについて、検討が必要である。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	1,000	0	800	800
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	1,000	0	800	800

予算要求の概要	文化講演会の開催に対する助成
要求額増減理由	
①支所	他地域で開催されている同種の事業との全市民的な調整が必要である。地域住民のみならず、全市民へ広くPRして集客を図り、事業効果を高める必要がある。
②本庁所管課(生涯学習課)	地域文化振興事業は、地域の公民館等において開催される文化祭・芸能祭、文化講演会等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されているが、地域によって、内容・実施主体・助成割合等が異なっているため、一定のルール化について検討する必要がある。また、文化芸術鑑賞事業等一般予算で行っている文化振興事業と地域文化振興事業との関係についても整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	地域振興計画額どおりとする
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	地域伝統芸能保存会助成事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	9	芸術文化を守り、次代へ継承します。 ・地域の伝統文化を守る活動や、新しい高山の文化を創造していく活動を支援する。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域の小学5年生～中学3年生の男子	受益者数	74 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域の伝統文化・芸能の保存と継承を図る。(一之宮地域に引き継がれている鬮鶏楽の伝承を図る。)		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域伝統芸能(鬮鶏楽)保存のための活動助成		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
				目標値	実績値	目標値	実績値	目標値
① 伝承回数(練習、例祭)	回	算出根拠等	参加人数	達成率(%)	100	100	100	-
			参加人数	達成率(%)	100	100	100	-
②	回	算出根拠等	参加人数	達成率(%)				-
			参加人数	達成率(%)				-
成果指標	① 子どもの参加人数	人	目標値	58	68	74	70	
			実績値	53	62	65	-	
成果指標	②	人	算出根拠等	達成率(%)	91	91	88	-
			参加人数	達成率(%)	91	91	88	-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)			(A) 45	45	45	45	
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源			45	45	45	45	
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
コスト面	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	625	625	608	608	
			受益者	一之宮地域の小学5年生～中学3年生 (B)	72	72	74	74
コスト面	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、伝統芸能を守り継承する活動として市長公約の達成に結びつく。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・小学生男子から鬮鶏楽が継承されることで、地域文化の継承への不安を払しょくしている。 ・水無神社の祭礼に奉仕する子供たちの姿から、地域住民の祭りへの参加意識が高まった。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・受益者は一之宮地域の子どもではあるが、子供たちの祭り参加により、親・家族から親戚といった市民全体へ波及しており、概ね市民全体に効果がある。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	B	・子ども自身が地域の行事に参加する意識が高まり、成果は十分達成されている。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・中学3年生までの5年間は、伝統文化に触れられ、文化継承には有効である。 ・子ども会(鬮鶏楽伝承会)への補助であるが、子ども会活動の活性化につながるものであり、有効である。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	・地域の伝承芸能保存活動として取り組んでいるので、特に課題はない。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	・少額の経費(補助)で、伝統芸能を保存しようとする目的が達成されているので、特に課題はない。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	A	・地域の伝統芸能を保存していくことから判断すると、受益者1人当たりのコストは適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	A	・少額の補助金額であるものの、伝統芸能の継承に成果が上がっているため、成果に対するコストは適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	17.0 / 20.0	100点換算	85 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・伝統芸能保存の観点から、引き続き補助していく。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	45	45	0	45	45
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	45	45	0	45	45

予算要求の概要	一之宮町子ども会による鬮鶏楽伝承活動に対する助成
要求額増減理由	
①支所	地域の伝統文化継承のためには、引き続き支援する必要があるが、地域による支援方法や支援内容等の検討が必要である。
②本庁所管課(文化財課)	・民謡などの地域芸能の伝承、後継者の育成は継続的に行うことが大切である。今後も計画的な支援が必要である。 ・公開の場を増やしていくことを他地域も含め検討する。
地域政策課	
地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	国指定天然記念物「臥龍桜」維持管理事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	9	芸術文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用する。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・国指定天然記念物「臥龍の桜」の保護育成(延命処置)の実施		
概要	事業の実施手法(手段)	・「臥龍の桜」の保護育成指導(樹木医) ・臥龍桜周辺の草刈、施肥の実施		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 草刈・施肥の回数			回	目標値	2	2	2
			実績値	3	3	3	-	
算出根拠等	回数			達成率(%)	150	150	150	-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 樹木医による指導回数			回	目標値	2	2	2
			実績値	1	0	0	-	
算出根拠等	回数			達成率(%)	50			-
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 現地診断回数(大学教授、樹木医等)			回	目標値	1	1	1
			実績値	1	1	1	-	
算出根拠等	回数			達成率(%)	100	100	100	-
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)			目標値	1	1	2
		(B)	実績値	94,235	93,822	93,312	93,312	
算出根拠等				達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)		(A)	119	85	180	650	
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源		119	85	180	650		
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、市長公約の「文化財などの資源を保存活用」への達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	A	・臥龍桜の開花時には市民のみならず、全国各地からも多くの観光客が訪れている状況から、保護事業に対するニーズは非常に高い。 ・国指定天然記念物の保存に対するニーズは非常に高い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・保護事業により、毎年素晴らしい開花を見ることができ、全市民を楽しませている。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・草刈や施肥は目標指数を上回って実施している。 ・有識者の現地診断で、成果について評価いただいている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・臥龍桜の開花も順調であり、満開の臥龍桜を見学する方も増えているので、有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・草刈、施肥に加え、支柱交換の時期も迎えているといった有識者の意見もあり、今後も計画的な保護活動が必要である。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・開花が順調であり、周辺整備(土壌改良等)も行われているので、特に問題はない。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・毎年順調開花することで、全市民に安らぎを与えられることは、受益者1件当たりのコストも適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・臥龍桜も毎年変わらず順調に開花していることから、保護育成が図られており、成果に対するコストは適正と判断できる。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		16.0 / 20.0	100点換算 → 80 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・保護育成に向けて、引き続き事業を実施していく。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	180	650	470	650	650
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	180	650	470	650	650

予算要求の概要	国指定天然記念物「臥龍の桜」の保護管理にかかる経費
要求額増減理由	電気マンホール撤去工事の増 生育調査、指導等に伴う謝礼、費用弁償の増
①支所	国指定天然記念物「臥龍の桜」の保護・育成のため、計画性をもった事業実施の検討が必要である。
②本庁所管課(文化財課)	・天然記念物の保護、育成は継続的に行うことが大切である。今後も国と連携し計画的な事業実施が必要である。
地域政策課	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	位山道維持管理事業		担当課	一之宮支所 地域振興課		内線	3421
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款	9	教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業		
	項	4	社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	7	文化財費		D	その他事業		
市長の約束	9	芸術文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用する。						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういった状態にしたいのか(意図)	・奈良時代からの官道遺構「位山道」(市指定文化財)を維持管理し、当時の先人たちの苦悩から生み出された高山固有の文化を後世に伝える。		
概要	事業の実施手法(手段)	・官道の維持管理(草刈)の実施		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 草刈の回数	回数	回	目標値	3	3	3	3	
算出根拠等	回数		実績値	3	3	3	-		
算出根拠等	回数		達成率(%)	100	100	100	-		
成果面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	② 石畳の修復工事	面積	m ²	目標値				30	
算出根拠等	面積		実績値				-		
算出根拠等	面積		達成率(%)				-		
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 官道を活用したイベント開催回数	回数	回	目標値	2	2	6	6	
算出根拠等	回数		実績値	2	2	6	-		
算出根拠等	回数		達成率(%)	100	100	100	-		
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)		目標値	0	0	3	6	
算出根拠等	受益者	市民	(B)	実績値	94,235	93,822	93,312	93,312	
算出根拠等				達成率(%)				-	
コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)				(A)	43	45	300	600
	受益者負担(使用料・負担金等)								
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
コスト指標	一般財源				43	45	300	600	
	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)	0	0	3	6		
	②	受益者	市民	(B)	94,235	93,822	93,312	93,312	
算出根拠等				達成率(%)					

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、官道にまつわる歴史等を伝承することで、市長公約の「文化財などの資源を保存活用」への達成に結びつく。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・街道(歴史)ブームやウォーキングなどの健康志向により、歴史ある街道を訪れる市民が増えている。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・官道を散策することは、歴史探訪や健康意識への市民ニーズに対応しており、概ね市民全体に波及効果はある。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・事業活動は計画どおりに達成されている。 ・歴史あるものを守ろうとする意識や取組みの高まりが出ており、年々官道ウォーキングイベントの開催回数が増えていることから、成果は十分達成している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・安心・安全に散策できる官道を市民に提供する観点から、草刈は有効な手段である。
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	B	・東山道飛騨支路としての歴史の道をより多くの人々にPRし、当街道がもつ歴史等を広く伝える取り組みが必要がある。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	B	・少人数・短期間での事業実施を行っている。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	B	・少人数・短期間で事業を行い、経費削減を図っている点から、コストは概ね適正である。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・少人数・短期間で事業を行い、経費削減を図っている点から、コストは概ね適正である。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 20.0	100点換算	65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・歴史ある官道を守り、高山文化にかかる官道の重要性を後世に引き継ぐために、引き続き事業を実施する必要がある。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・利活用について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	300	600	300	600	600
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	300	600	300	600	600

予算要求の概要	位山道整備(除草)委託料、石畳の補修にかかる経費
要求額増減理由	石畳補修にかかる経費の増
①支所	市民参加や保存団体の組織化による保存活動の定着化が必要である。
②本庁所管課(文化財課)	・文化財の保護、啓発は継続的に行うことが大切である。指定文化財であり、補修は充分検討する必要がある。
地域政策課	
	施設の利用者増のためのPR等検討することが必要である。

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	文化財標柱等設置事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	9	国内外から訪れる多くの観光客に名所旧跡、文化財等を分かりやすく紹介するためパンフレット、説明板等の整備や、人と人のつながりを大切にする語り部の育成に取り組めます。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・市民の誰もが、名所・旧跡、文化財等に触れ、文化財への理解を深めていただくとともに、後世に伝えるための保護意識を高める。		
概要	事業の実施手法(手段)	・旧町村で整備された木柱標柱を石柱標柱に交換する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 標柱の交換数		個	目標値	5	5	5
実績値				3	5	5	-
算出根拠等	個数		達成率(%)	60	100	100	-
成果面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②		目標値				
実績値						-	
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 標柱の交換率	%	目標値	13	13	13	13
実績値			3	8	13	-	
算出根拠等	交換件数/全体数値		達成率(%)	24	64	100	-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	目標値	4	7	9	4
実績値			94,235	93,822	93,312	93,312	
算出根拠等			達成率(%)				-

コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)	(A)	357	668	800
受益者負担(使用料・負担金等)					
その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
一般財源		357	668	800	370

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられているとともに、伝統文化を守り、次代へ継承する取組みは、市長公約の「名所旧跡、文化財等を国内外の人にわかりやすく紹介する。」への達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・広く地域の歴史や文化を知るうえでは、ある程度の市民ニーズはある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・歴史と伝統がある文化財を守り、伝承し、正確に紹介することで、市民の文化財に対する意識高揚につながる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	C	・計画どおりの進捗で進めているので、概ね達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・木柱から石柱に交換することで、半永久的に表示、紹介ができるので有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・個々の文化財に見合った大きさの標柱や木製看板とすることで、現況にマッチしたものを設置している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・個々の文化財に見合った大きさの標柱や木製看板とすることで、現況にマッチしたものを設置することでコスト削減している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・全市民の誰もがわかりやすく、見やすい標柱という目的を達成していることからすれば、概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	A	・全市民の誰もがわかりやすく、見やすい標柱という目的を達成していることからすれば、適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		14.0 / 20.0	100点換算 → 70 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・計画どおりに実施していくことで、標柱の更新ができるので、引き続き実施していく。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成26年度までに完了できるよう事業を継続する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	800	370	△ 430	400	400
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	800	370	△ 430	400	400

予算要求の概要	文化財標柱設置にかかる経費
要求額増減理由	樹木の文化財の育成保護のために、石製看板から木製看板へ変更することによる減額
①支所	看板の立替は完了するものの、継続的な維持管理が必要。
②本庁所管課(文化財課)	文化財標柱・説明看板の設置は文化財保存や啓発の観点から必要であり、設置計画に基づき計画的に設置を進める必要がある。
地域政策課	計画的に実施し、地域振興特別予算措置期間に設置完了することが必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	95199	地域スポーツ振興事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	5 保健体育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 体育総務費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民(高校生以上)	受益者数	2,246 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	一之宮町民が、スポーツに親しむことにより、日頃の運動不足の解消と町民の親睦、地域の絆づくりにより、地域活性化につなげる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ソフトバレー、野球、ソフトボール、卓球、ゲートボール、剣道、グランドゴルフ、スキー		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	競技種目数	種目	指標名								
				単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画			
成果指標	算出根拠等	種目数	種目	目標値	11	11	11	11				
				実績値	8	9	10	-				
成果指標	算出根拠等	参加者数	参加者数	達成率(%)	73	82	91	-				
				達成率(%)								
成果指標	算出根拠等	参加者数	参加者数	目標値	450	450	450	450				
				実績値	500	430	450	-				
成果指標	算出根拠等	参加者数	参加者数	達成率(%)	111	96	100	-				
				達成率(%)								
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	歳出(千円)	(A)	180	170	160	150
							受益者負担(使用料・負担金等)					
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	一般財源		180	170	160	150
							その他特定財源(国・県支出金・起債等)					
コスト面	算出根拠等	受益者1件当たり(円)	H21	H22	H23見込	H24計画	受益者	(A/B)	81	76	71	67
							受益者	一之宮町民(高校生以上)(B)	2,219	2,247	2,246	2,246

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられ、一之宮町民の体育振興につながるため、重要性は高い。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・地域において、子どもから高齢者までが交流でき、町民が楽しんでいる事業であり、依然としてニーズは高い。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・一之宮町での活動成果が市内の体育行事への参加意欲への高揚につながり、また好成績を収めることにより、市スポーツレベルを高めることで、概ね市民全体に波及効果がある。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・社教体育部の事業であるが、地域の主体性から概ね達成されている。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・社教体育部の事業であるが、地域の主体性から概ね達成されている。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・自主事業に向けた展開ができるよう進めている。現在は種目が限定されているため、誰もが気軽に参加できる競技の必要性を促している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・自主事業に向けた展開ができるよう進めている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・一之宮町民の健康増進の観点から概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・一之宮町民の健康増進の観点から概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		12.0 / 20.0	100点換算	60 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・一之宮町民の社会体育の振興と健康増進といった観点から引き続き実施していく。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・地域の自主的な活動とすべく、負担金の段階的な引き下げを行う必要がある。 ・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	160	150	△10	150	150
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	160	150	△10	150	150

予算要求の概要	地域スポーツ大会の開催に対する助成
要求額増減理由	計画に基づく減
①支所	・地域の歴史ある体育行事であるため、自主運営による継続実施に向けた調整が必要である。 ・同様の体育行事について、一体感のある全市的な調整が必要である。
②本庁所管課(スポーツ振興課)	地域スポーツ振興事業は、地域の特性に応じた各種大会の開催や地域におけるスポーツ活動の推進等に対する助成として全支所地域において地域振興特別予算に計上されている。現在、一般予算の中で地域におけるスポーツ教室の開催方法やスポーツイベントのあり方等について検討しているところであり、当面、当該事業を継続する中で、事業のあり方や一般予算との関係等を整理する必要がある。
地域政策課	
同上	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20899	公有財産管理事業 (林業資材倉庫解体)	担当課	一之宮支所地域振興課	内線	3412
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		○ C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	8 財産管理費		D	その他事業	
市長の約束	10	市民のための行政改革を断行します。 ・市の施設や支所の改修利用を進めるほか、遊休施設・土地などの有効活用を行います。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民	受益者数	2,634 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・老朽化し危険な施設を取り壊すことで、住民の安全安心が守られる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・老朽化した資材倉庫(木造)の解体		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 撤去建物面積			㎡	目標値			
		実績値					-	
	算出根拠等			達成率(%)				-
成果面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
②				実績値				
				達成率(%)				
	算出根拠等			達成率(%)				
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
①				実績値				
				達成率(%)				
	算出根拠等			達成率(%)				
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
①				実績値				
				達成率(%)				
	算出根拠等			達成率(%)				
コスト内訳	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)						1,200	
①	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
	一般財源						1,200	
コスト指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値				
①	受益者1件当たり(円)(A/B)			実績値				456
	受益者 一之宮町民 (B)							2,634
	算出根拠等			達成率(%)				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	A	・施設の有効利用ができるので、公約達成につながる。
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・遊休施設の利用に対する意見もあるので、ニーズはある。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・老朽化しており、町民の安全安心につながるので、効果がある。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	H24新規事業のため
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	評価対象外	H24新規事業のため
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	H24新規事業のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	評価対象外	H24新規事業のため
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	評価対象外	H24新規事業のため
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	評価対象外	H24新規事業のため
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	4.0 / 6.0	100点換算	67 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	完了

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	○	完了

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	0	1,200	1,200	1,200	1,200
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	0	1,200	1,200	1,200	1,200

予算要求の概要	解体工事にかかる経費
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	解体後の市有地について、活用・処分等の方針検討が必要である。
②本庁所管課(管財課)	解体後の土地について、売却を含めた跡地利用の検討が必要である。
地域政策課	
同上	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	一之宮地域力推進事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		O	C 終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民	受益者数	2,634 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域資源を利用した「健康づくり」と「交流拠点の創出」を基調とした地域活性化策の洗出しや掘り起しを行うことによって、地域に根差した街づくりを行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域の魅力を熟知する各種団体から選出された委員で構成する「一之宮地域活性化会議」に負担金を交付し、活性化対策について協働で取り組んでいる。		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①	一之宮活性化会議の開催回数	回	目標値			5	5
			実績値		3	5	
算出根拠等	実施回数/目標回数		達成率(%)		60	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②	活性化イベントの実施回数(調査事業含む)	回	目標値			2	2
			実績値		2	2	-
算出根拠等	実施回数/目標回数		達成率(%)		100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
①			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値		
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			0	1,200	1,200	2,000
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト面	一般財源			0	1,200	1,200	2,000
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)			452	456	760
		受益者	一之宮町民(B)		2,657	2,634	2,630
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられており、当該事業の推進によって地域の活性化や地域力の向上が生まれ、目標達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・地域住民の活発な交流を促すことで、地域力の向上が見込まれるといった観点から、ある程度のニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・当初効果の大部分は一之宮町住民に及ぶものであるが、以後の波及は概ね市民全体に及ぶものとする。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・活動に対する目標は概ね達成しているが、現在、調査・計画段階であり、成果指標を設定することが困難である。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・地域住民の代表者で構成されている団体が主体となって事業を推進しており、新たな視点に立った工夫がうかがえ、有効的である。 ・外部有識者の指導を受けながら事業推進しているので、有効的である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・地域内で他の同じような目的を持つ取組みとの連携を視野に入れて取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・地域内で他の同じような目的を持つ取組みとの連携を視野に入れて取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・全町民への波及を考えれば、概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	評価対象外	現在、調査・計画段階であり、成果指標を設定し判断することが困難である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		10.0 / 16.0	100点換算	63 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	成果が把握できる具体的な取り組みを実践するため、継続実施する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	行政の関与を縮小していく必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,200	2,000	800	1,200	1,200
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,200	2,000	800	1,200	1,200

予算要求の概要	地域活性化モデル事業負担金
要求額増減理由	これまでの事業成果を活用した取組みを推進することによる増
①支所	地域活性化に向けた持続可能な活動や行動等に展開する必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	事業最終年度のため成果を検証したうえで、次年度以降も成果が活かされるためのしくみづくりが必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	積算内容の精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	一之宮地域再発見事業		担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3410
予算	会計	1	一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1	総務管理費		O	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9	企画費		D	その他事業	
市長の約束	1 9	積極的な観光振興策を実施します。 ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。 ・芸術文化を守り、次代へ継承します。 ・高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用する。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民	受益者数	2,634 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域力向上のため、一之宮地域の魅力の再発見と地域資源の発掘を行う。		
概要	事業の実施手法(手段)	・外部からの視点を取り入れることにより、新たな発見を見出すために、岐阜女子大との連携により実施する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
①	ワーキング活動等の開催数	回	目標値			1	3
			実績値			1	3
算出根拠等	開催数		達成率(%)			100	100
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				-
①	ワークショップの出席者数	人	目標値			80	100
			実績値			74	100
算出根拠等	出席者数		達成率(%)			93	100
②			目標値				
			実績値				
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)			(A)	719	1,000	1,000
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源				719	1,000	1,000
コスト指標	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)		272	380	380
				受益者	一之宮町民	(B)	2,641
	②						
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など	
	A(2)	B(1)			
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられ、地域の魅力を再発見し、新たな地域振興を図る点では、市長公約の実現に重要な事業である。	
	B(1)	一部結びつく			
	C(0)	結びつかない			
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・「地域を守る」「地域を保持する」といった地域の継承を期待する住民ニーズは高い。 ・商工会、観光協会など地域の活性化に取り組んでいる団体にとって、意味ある事業であり、ニーズは高い。	
	B(1)	ある程度のニーズがある			
	C(0)	少ない、減少している			
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	A	・地域の新たな魅力が発見されることで、一之宮地域に興味を持つ方も増える一方、地域の子供から高齢者までが一体となって継承する取組みへと発展する可能性があり、モデルケースとなって市民全体への波及効果はある。	
	B(1)	概ね市民全体におよぶ			
	C(0)	わずかな受益者に限定される			
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	B	・地域交流説明会を開催したことにより、地域の魅力に興味を持ったり、知りたがる町民の参加があったので、概ね達成している。	
	B(1)	概ね達成している (75%以上)			
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)			
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・外からの視点加わること、地域の方ではわからない魅力が発見されることから有効である。 ・地域住民の幅広い年代からの参加が促され有効的である。	
	B(1)	概ね有効である			
	C(0)	見直しが必要である			
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・地域の多くの若者に参加してもらえるような工夫に取り組んでいる。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・最小限の経費で取り組んでいるので、問題はない。	
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる			
	C(0)	対応していない			
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・地域の保持、継承につながる取組みであり、一之宮地域全体に波及する事業であるため、概ね適正である。	
	B(1)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・地域の保持、継承につながる取組みであり、一之宮地域全体に波及する事業であるため、概ね適正である。	
	B(2)	概ね適正である			
	C(0)	改善が必要である			
合計		13.0 / 20.0	100点換算		65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成22年度から3年間の継続事業であり、事業の最終年度として、引き続き実施していく。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・成果の有効活用について検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	1,000	0	1,000	1,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	1,000	0	1,000	1,000

予算要求の概要	現地調査、総合検証などにかかる経費
要求額増減理由	
①支所	
	・地域住民と学生との協働による、具体的な活動や行動等への展開が必要である。併せて、地域ぐるみでの取り組みまでに発展、拡大させる必要がある。
②本庁所管課(地域政策課)	
	事業最終年度のため成果を検証したうえで、次年度以降も成果が生かされるためのしくみづくりが必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	21899	「源流の里」ほたるの舞う里づくり事業		担当課	一之宮支所 基盤産業課		内線	3431	
予算	会計	1	一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事			
	款	2	総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業			
	項	1	総務管理費		O	C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目	18	環境政策費		D	その他事業			
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。							

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・ホタルの保護育成を行うことにより、源流の特徴ある自然生態系を保ち、地域住民の愛郷精神を育む。 ・新たな観光スポットとして創出を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・ホタルの生育調査や環境整備を行う。		
概要	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	目標値	実績値
① 生息調査	調査実績	式	式	目標値		1	1	1
				実績値		1	1	1
算出根拠等				達成率(%)		100	100	-
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	目標値	実績値
② 生息調査地点啓発看板	看板設置数	本	本	目標値		5	0	
				実績値		5	0	-
算出根拠等				達成率(%)		100	-	
成果指標	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	目標値	実績値
① 生息調査報告	調査実績	式	式	目標値		1	1	
				実績値		1	1	-
算出根拠等				達成率(%)		100	100	-
コスト面	算出根拠等	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
					目標値	実績値	目標値	実績値
① 受益者1件当たり(円)	市民	(A/B)	(A/B)	目標値		3	4	4
				実績値		94,235	93,822	93,312
算出根拠等				達成率(%)				-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
歳出(千円)				(A)	0	289	400	400
財源内訳				H21	H22	H23見込	H24計画	
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源				0	289	400	400	
コスト指標				H21	H22	H23見込	H24計画	
① 受益者1件当たり(円)	市民	(A/B)	(A/B)	目標値		3	4	
				実績値		94,235	93,822	93,312
算出根拠等				達成率(%)				

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画、市長公約に位置付けられており、希少かつ貴重な自然遺産を守るという意識の高揚が図られ、新たな観光スポットとしての創出で目的達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・ヘイケボタル・ゲンジボタルの生息調査・環境整備の実施による、ほたるの生息数の増加への期待感があるため、ある程度のニーズがある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・ホタルの保護育成活動は他の地域でも行われており、連携することで市民全体へ広がるのが期待できる。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・生息調査や調査地点啓発看板の設置については、目標値を達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	B	・当事業は平成22年度から実施しているため、当年度も引き続き生息調査を行う。 ・今後は有識者や研究者の指導を得ることも必要である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・今年度、新たな取り組みとしてホタルの保護・啓発を目的とした市民向けの講習会を予定している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・地元NPO法人の協力のもと、必要最小限の経費で実施している。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・当事業は、地域のホタルを守り活かすという性格から判断して、概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・当事業は、地域のNPO法人に委託しており概ね適正である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		12.0 / 20.0	100点換算 → 60 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・ホタルを活かした地域振興をどう進めるかを検討。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	自然環境の保全についての市の関わり方について整理する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	400	400	0	400	400
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	400	400	0	400	400

予算要求の概要	ホタルの生息調査、生育環境整備に係る経費
要求額増減理由	
①支所	・ホタルの生息調査や保護環境の整備を通して、地域ぐるみでのホタル保護活動を行うような体制整備と意識啓発が必要である。
②本庁所管課(地域政策課)	地域振興特別予算措置期間終了後を見据えた方針の策定が必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	53299	ダナ平林道整備事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	5 農林水産業費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	3 林業費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 林業振興費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	ダナ平林道利用者(登山者ほか)	受益者数
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・位山登山利用者の多いダナ平林道の急勾配部を舗装することにより、利用者の安全性と快適性の向上を図る。	
概要	事業の実施手法(手段)	・計画的に舗装を新設整備する	
前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 舗装整備延長		m	目標値	320	300	320
実績値				320	307	320	-
算出根拠等	達成率(%)			100	102	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②		目標値				
実績値						-	
算出根拠等	達成率(%)						-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①		目標値				
実績値						-	
算出根拠等	達成率(%)						-
コスト面	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①		目標値				
実績値						-	
算出根拠等	達成率(%)						-
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)	(A)	4,700	4,998	5,000	5,000	
	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)		2,350	2,499	2,500	2,500	
コスト面	一般財源		2,350	2,499	2,500	2,500	
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
	② 受益者	(B)					
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A (2) 結びつく	B	・地域振興計画に位置付けられ、林業振興と森林のもつ多面的な機能維持が図られている
	B (1) 一部結びつく		
	C (0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A (2) 非常に多い、急増している	B	・位山登山者や巨樹・巨木を訪れる方などある程度のニーズがある。
	B (1) ある程度のニーズがある		
	C (0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A (2) 市民全体におよぶ	B	・ダナ平林道の利用者は、林業関係者や登山者などわずかな受益者に限られているが、安全な登山機会を市民に提供するという観点から、概ね市民全体に及ぶ。
	B (1) 概ね市民全体におよぶ		
	C (0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A (2) 十分に達成している (100%以上)	A	・林道の舗装整備延長は目標値を達成している。
	B (1) 概ね達成している (75%以上)		
	C (0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A (2) 有効である	A	・林道利用者の安全性・快適性の向上を図る上で有効である
	B (1) 概ね有効である		
	C (0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A (2) 課題はない・解消されている	A	・計画的に全線舗装を目指し、事業に取り組んでいる。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A (2) 課題はない・解消されている	A	・再生材の使用などコスト削減に取り組んでいる。
	B (1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C (0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A (2) 適正である	評価対象外	・受益者が不特定なため評価対象外とした。
	B (1) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A (4) 適正である	B	・今後もコスト削減に取り組む事業を推進する。
	B (2) 概ね適正である		
	C (0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 18.0	100点換算	72 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・できるだけ早期に完成するよう計画的に事業推進を行う。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	5,000	5,000	0	5,000	5,000
国庫支出金					
県支出金	2,500	2,500	0	2,500	2,500
起債					
その他					
地域振興特別予算	2,500	2,500	0	2,500	2,500

予算要求の概要	急勾配部の舗装新設工事費
要求額増減理由	
①支所	・当該路線を利用する位山登山者などの安全性と利便性を確保するために、計画的かつ早期完成を目指した事業実施が必要である。
②本庁所管課(林務課)	・林道の改良により、林道利用者の利便性が高まる反面、標識の設置等交通事故対策を講じる必要がある。
地域政策課	
地域振興特別予算措置期間に事業完了することが必要である。	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62499	「源流の里」登山道・遊歩道整備事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		○ C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 自然公園費		D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎新たな観光資源を発掘し活用します ・合併後の周辺の自然環境や地域特有の伝統文化など多様な観光資源を新たな観光資源として積極的に活用します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	登山道利用者	受益者数	
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 登山道・遊歩道利用者の安全性及び快適性の向上を図る。 登山ブームにより利用者の増大が期待できる。 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 登山道・遊歩道を改修整備する。 登山道・遊歩道のガイドブックを作成する。 		
	前回の評価からの改善・改革のポイント			

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 登山道・遊歩道整備済延長	算出根拠等		m	目標値	2,000	3,000	2,900
整備済延長/計画延長		実績値	2,000		3,000	2,900	-	
算出根拠等			達成率(%)	100	100	100	-	
指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画	
②	算出根拠等			目標値				
				実績値				-
	算出根拠等			達成率(%)				-
	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
①	算出根拠等			目標値				
				実績値				-
	算出根拠等			達成率(%)				-
	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
②	算出根拠等			目標値				
				実績値				-
	算出根拠等			達成率(%)				-
	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
歳出(千円)		(A)	4,578	4,515	5,000	6,000		
受益者負担(使用料・負担金等)								
その他特定財源(国・県支出金・起債等)								
一般財源			4,578	4,515	5,000	6,000		
コスト面	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画	
	① 受益者1件当たり(円)		(A/B)	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	#DIV/0!	
	② 受益者		(B)					
	算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられており、総合計画の「森林のもつ多面的な機能維持」への達成にも結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・位山や川上岳登山者などにニーズがあり、登山者の増加に伴いニーズも増える傾向にある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・受益者は登山者などに限られるが、安全な登山機会を市民に提供するという観点から、概ね市民全体に及ぶ。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・登山道の舗装整備率は目標値を達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・登山者の安全性・快適性の向上を図る上で有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	A	・計画的に登山道整備に取り組んでいる。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	B	・岐阜県産の間伐材を使用してコスト削減を図っている。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	評価対象外	・受益者が不特定なため評価対象外とした
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	・今後、より多くの登山者が利用されることで、適正化が図られる。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 18.0	100点換算 → 72 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・できるだけ早期に完成するよう計画的に事業推進を行う				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	5,000	6,000	1,000	6,000	6,000
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	5,000	6,000	1,000	6,000	6,000

予算要求の概要	・登山道、遊歩道の整備(位山～川上岳間) (位山～あらざ湖間)
要求額増減理由	・政板登山道の新規整備に伴う増(船山～位山～川上岳縦走路の整備)
①支所	・位山、川上岳への登山者等の安全性や利便性を確保するため、計画的かつ持続的な維持管理が必要である。
②本庁所管課(地域政策課)	
地域振興特別予算措置期間に事業完了することが必要である。	
地域政策課	

財務部査定の考え方	要求どおり
市長査定の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62499	「源流の里」案内看板整備事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	3 自然公園費		D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	<ul style="list-style-type: none"> 観光・施設情報など最新情報を得ることができる 老朽化した案内看板を更新することにより、景観の保全を図る 		
概要	事業の実施手法(手段)	<ul style="list-style-type: none"> 田園風景にマッチした総合案内看板を観光地・公共施設を中心に整備する 		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 総合案内看板設置数	箇所	目標値		1	1	1	1
実績値			1	1	1	1	1	1
算出根拠等	設置数/設置予定数	達成率(%)		100	100	100	-	-
成果面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②	目標値						
実績値								
算出根拠等	達成率(%)							
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	目標値						
実績値								
算出根拠等	達成率(%)							
②	目標値							
	実績値							
算出根拠等	達成率(%)							
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)(A)		1,187	1,967	1,000	1,000		
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト指標	一般財源		1,187	1,967	1,000	1,000		
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
①	受益者1件当たり(円)(A/B)	13	21	11	11			
	受益者 市民(B)	94,235	93,822	93,312	93,312			
②								
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B	・地域振興計画に位置付けられ、地域を訪れる人の利便性の向上が図られていることで、目標達成に結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	・地域を訪れる人にとっては、観光資源の把握が容易に入手できる面から、ある程度ニーズがある
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	・看板を設置する箇所は、支所・臥龍公園・JR飛騨一ノ宮駅・水無神社の4か所、いずれも地域を訪れる人が立ち寄る拠点となるべき箇所である。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	A	・計画的に順次整備しており目標を達成している。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	・看板の設置箇所は、支所・臥龍公園・JR飛騨一ノ宮駅・水無神社といった地域の拠点であり、看板の性質を満たし有効的である。 ・木製の看板を設置することで景観に配慮している
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	A	・看板については、地域住民や観光客から好評を得ている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	・地域の景観にマッチし、統一した看板を設置することにより、コスト削減を図っている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	・一之宮地域を訪れた全市民に有益であり、1人当たりのコストは適正である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B	・地域を訪れる人の利便性や景観への配慮などから判断すると概ね適正である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	13.0 / 20.0	100点換算	65 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・計画どおり順次整備する。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	(担当課評価に同じ)				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	1,000	1,000	0	1,000	1,000
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	1,000	1,000	0	1,000	1,000

予算要求の概要	案内看板設置費
要求額増減理由	
①支所	・地域を訪れる方の利便性を図るため、地域の案内看板を計画的に設置する。
②本庁所管課(地域政策課)	
事業実施の課題	地域振興特別予算措置期間に事業完了することが必要である。
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	94799	天然記念物(希少動植物)生態環境調査事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3421
予算	会計	1 一般会計	特別予算の位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		○ B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	4 社会教育費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	7 文化財費		D	その他事業	
市長の約束	9	芸術文化を守り、次代へ継承します。 高山固有の美しさを守り続け、歴史的、社会的に価値のある有形無形の伝統文化や文化財などの資源を保存活用する。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	一之宮地域には市指定天然記念物(苅安湿原植物群自生地、バイカモ、ミヤマシジミ、宮川のアジメドジョウ)として希少動植物が指定されているものの、昨今の環境変化等による影響が危惧されている。そこで、当該動植物の生態状況を調査し、以後の保護、保存対策を講じる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・苅安湿原環境対策調査(湿原保全・植生保存等対策法の調査・検討、緊急対策等) ・ミヤマシジミ、バイカモ、アジメドジョウ(生態調査及び保存対策方法の調査、検討等)		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 現地調査の実施	回数	回	目標値 実績値				4
算出根拠等	回数		達成率(%)				-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	② 検討委員会の開催	回数	回	目標値 実績値				2
算出根拠等	回数		達成率(%)				-	
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①	回数	回	目標値 実績値				-
算出根拠等	回数		達成率(%)				-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額		
	歳出(千円)		(A)				1,450	
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)							
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)							
コスト面	一般財源					1,450		
	指標名		H21	H22	H23見込	H24計画		
コスト面	①	受益者1件当たり(円)	(A/B)				16	
	②	受益者	市民	(B)			93,312	
算出根拠等								

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	・地域の天然記念物を保護することで、市長公約の「文化財などの資源を保存活用」への達成に結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	・市民の自然環境保全に対する関心が高まっており、特に、源流域の環境保護のニーズは高い。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	A	・市民の貴重な財産である天然記念物を守る事は重要であり、特に絶滅危惧種の動植物が多く残っている湿原や希少動植物を保護する事は、市民の環境保護意識の高揚につながる。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	評価対象外	H24新規事業のため
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	評価対象外	H24新規事業のため
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	評価対象外	H24新規事業のため
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	評価対象外	H24新規事業のため
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	評価対象外	H24新規事業のため
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	評価対象外	H24新規事業のため
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	5.0 / 6.0	100点換算	83 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○ 維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・現地調査の結果から、保護すべき希少動植物については、保護対策を講じていく。				
総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	0	1,450	1,450	1,200	1,200
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	0	1,450	1,450	1,200	1,200

予算要求の概要	苅安湿原環境対策調査にかかる経費 ミヤマシジミ、バイカモ、アジメドジョウ保護対策調査にかかる経費
要求額増減理由	新規事業のため
①支所	・生態状況の現状把握と保護対策方法の確立 ・保護活動団体の組織化
②本庁所管課(文化財課)	・天然記念物の保護、育成は継続的に行うことが大切である。今後も地域と連携し計画的な事業実施が必要である。
地域政策課	・地域の自主的、主体的な保護活動の促進に結びつける必要がある。

財務部査定 の考え方	積算内容を精査
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	62199	清酒臥龍桜醸造助成事業	担当課	一之宮支所 基盤産業課	内線	3431
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	6 商工費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 観光費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	1 観光振興費		○ D	その他事業	
市長の約束	1	積極的な観光振興策を実施します ◎最新の媒体を駆使し、多様な誘客を行います。 ・高山にふさわしい土産品の開発、生産、パッケージ化、販売を支援します。				

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	市民	受益者数	93,312 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・源流の水を活用した地域の特産品として「清酒臥龍桜」を販売することにより、観光振興の充実を図る。 ・清酒ラベルに臥龍桜日本画大賞展審査員方の絵画を採用することで、当該日本画展の知名度アップを図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・飛騨一之宮酒販売組合が行う、特産品「清酒臥龍桜」の販促宣伝活動に補助金を助成している。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 清酒臥龍桜出荷本数	算出根拠等	出荷本数/出荷予定本数	本	目標値	2,500	2,500	2,500
実績値					2,500	2,500	2,500	-
達成率(%)			100	100	100	-		
算出根拠等								
成果指標	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 清酒臥龍桜販売本数	販売本数/出荷本数	本	目標値	2,500	2,500	2,500	2,500
				実績値	2,500	2,500	2,500	-
	達成率(%)			100	100	100	-	
算出根拠等								
コスト面	指標名		単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 受益者1件当たり(円)	(A/B)		目標値	2	2	2	2
				実績値	94,235	93,822	93,312	93,312
	達成率(%)			60	60	60	60	
算出根拠等		事業経費/販売本数						

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられており、地域の特色を生かした魅力ある商業振興が図られことで、目標達成に結びつく。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・地元限定のオリジナル商品としてある程度のニーズがある
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	C	・出荷数が2,500本のため受益者が限定される。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・出荷目標は、達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・臥龍桜日本画大賞展の審査員に商品ラベル原画を依頼しているため観光宣伝としても有効である
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・商品のRP方法や販売方法に工夫が必要である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	A	・観光宣伝に直結した付加価値の高い商品である
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	B	・2500本の少ない販売本数であるが、市民に対するコストとしては、概ね適正である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	B	当事業は、一之宮酒販売組合が実施している
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		13.0 / 20.0	100点換算 → 65 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・商品のRP方法や販売方法の検討				
総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・補助の必要性について再検討する必要がある。 ・特例期間終了を見据え、地域への波及効果などの分析を行いつつ、行政の関与を段階的に縮小していく必要がある。				
議会からの提言等					

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	150	150	0	150	150
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	150	150	0	150	150

予算要求の概要	・特産品「清酒臥龍桜」の製造に対する助成
要求額増減理由	
①支所	・国指定天然記念物「臥龍桜」や臥龍桜日本画大賞展等との連携した更なる販売促進や知名度アップに努め、自主事業化を進める必要がある。
②本庁所管課(観光課)	
事業実施の課題	酒販組合での自主事業化に向けて検討する必要がある。
地域政策課	
事業者が自主的に取り組むことができるようにすることが必要である。	

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	92299	地域小学校教育振興事業費	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3413
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	9 教育費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	2 小学校費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	2 教育振興費		○ D	その他事業	
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮地域の小学5年生	受益者数	26 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・神通川の源流域と下流域(富山県岩瀬地区)の子どもたちの交流により、上流から下流までそのままの川の姿をつなげていくために、源流域の森の大切さを知り、自然を守ることの重要性を学ばせる。		
概要	事業の実施手法(手段)	・神通川の最終到達点である富山県岩瀬地区の小学5年との交流を実施する。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 参加人数	人数	人	目標値	33	25	26	34
			実績値	33	25	26	-
算出根拠等	人数		達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 参加人数	人数	人	目標値	33	25	26	34
			実績値	33	25	26	-
算出根拠等	人数		達成率(%)	100	100	100	-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
②			目標値				
			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)				H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
歳出(千円)(A)				280	110	110	110
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
	一般財源			280	110	110	110
コスト面	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
	①	受益者1件当たり(円)(A/B)		9,655	3,333	4,231	3,235
		受益者	一之宮地域の小学5年生(B)		29	33	26
	②						
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準		評価	評価内容の説明など
	A(2)	B(1)		
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2)	結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられ、源流の森を守る教育を実践するためには重要な事業である。
	B(1)	一部結びつく		
	C(0)	結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2)	非常に多い、急増している	B	・交流した子どもたちが、市民に対して広く体験報告、啓発しており、ニーズはある。
	B(1)	ある程度のニーズがある		
	C(0)	少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2)	市民全体におよぶ	B	・交流した子どもたちが、市民に対して広く体験報告、啓発しており、概ね市民全体への効果はある。
	B(1)	概ね市民全体におよぶ		
	C(0)	わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2)	十分に達成している (100%以上)	A	・目標とする活動指標を達成している。
	B(1)	概ね達成している (75%以上)		
	C(0)	あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2)	有効である	A	・地元だけでなく、最下流のことを知り、その子供たちと自然の重要性を共有することは非常に有効である。
	B(1)	概ね有効である		
	C(0)	見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2)	課題はない・解消されている	B	・宿泊研修から日帰り研修に変更したことで、真の学び感覚の研修へと結びついている。 ・子ども会でも、富山県岩瀬地区と同様の交流事業を行っているため、統合も含めた両事業の調整が必要である。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2)	課題はない・解消されている	C	・子ども会でも、富山県岩瀬地区と同様の交流事業を行っているため、統合も含めた両事業の調整が必要である。
	B(1)	改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0)	対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2)	適正である	C	・自主事業に向けた実施が必要である。
	B(1)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4)	適正である	C	・自主事業に向けた実施が必要である。
	B(2)	概ね適正である		
	C(0)	改善が必要である		
合計		9.0 / 20.0	100点換算 → 45 / 100	

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	○	維持・改善	拡大	縮小	廃止の検討	完了
	・源流域の役割を認識させるための事業として重要であるので、引き続き実施していく。 ただし、学校事業なのか、実行委員会事業なのかの運営主体の明確化が必要。また、併せて同種の子ども会事業との調整が必要である。					

総合評価(二次評価)	維持・改善	拡大	○	縮小	廃止の検討	完了
	・特例期間終了を見据え、市全体のバランスを考慮し、縮小(廃止)を検討する必要がある。					

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	110	110	0	110	110
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	110	110	0	110	110

予算要求の概要	富山県岩瀬小学校との児童交流事業に対する助成
要求額増減理由	
①支所	H27以降の事業への取組み方針の明確化。
②本庁所管課(学校教育課)	H26までで事業終了であるが、郷土愛を培う交流事業として成果が上がっているため、平成27年度以降は学校と地域が連携して自主運営事業として実施する ・学年行事をスリム化するためにも、セカンドスクールとの整合を図り自主運営事業として実施する等の方針で検討する必要がある
地域政策課	
	特定地域の学校による他都市との交流事業に対する取組方針を定める必要がある。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域振興事業補助金	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3411
予算	会計	1 一般会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。 ・地域の個性あるまちづくりと、市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民	受益者数	2,634 人
	どういう状態にしたいのか(意図)	・地域住民の創意と工夫による魅力ある地域づくりを推進するため、市民自らが主体となって取り組むことにより地域活性化を図る。		
概要	事業の実施手法(手段)	・地域が自主的に取り組む公共性の高い事業に対して補助を行う。		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 補助金申請件数	件数	件	目標値	10	10	10	10
			実績値	10	7	10	-
算出根拠等	件数	達成率(%)	100	70	100	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 補助金交付申請額	千円	千円	目標値	3,000	3,000	3,000	2,000
			実績値	1,926	2,825	2,400	-
算出根拠等	申請額	達成率(%)	64	94	80	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
① 補助金交付実績件数	件	件	目標値	10	10	10	10
			実績値	10	7	10	-
算出根拠等	件数	達成率(%)	100	70	100	-	
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
				目標値	実績値	目標値	実績値
② 補助金交付実績率	%	%	目標値	80	80	80	80
			実績値	64	94	70	-
算出根拠等	実績率	達成率(%)	80	118	88	-	
コスト面	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)			H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額
	歳出(千円)(A)			1,926	2,825	2,100	3,000
コスト面	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
コスト面	一般財源			1,926	2,825	2,100	3,000
	指標名			H21	H22	H23見込	H24計画
①	受益者1件当たり(円)(A/B)		735	1,070	797	1,139	
	受益者 一之宮町民(B)		2,620	2,641	2,634	2,634	
②							
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	A	・地域振興計画に位置付けられ、市長公約にある「地域の個性あるまちづくりと市域の一体感を創るため、地域が手を取り合って取り組む活動に支援します。」との公約達成に結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	・地域の自主的な活動に活用されており、補助金交付のニーズがある。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	・地域の自主事業に対する補助ではあるが、地域の活力アップが市全体へも波及することから、概ね市民への波及効果はある。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	・目標とする交付額の80%以上の交付がされており、概ね達成されている。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	・市民自らが主体となって取り組む事業への支援であるため、地域活動等の活発化には有効的である。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	・新たな活動や地域づくりへの取組みに有効活用していただくようPRを行っている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	A	・申請金額が適正かどうかを審査するために、複数社からの見積を添付していただいているので、適正である。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	A	・申請金額が適正かどうかを審査するために、複数社からの見積を添付していただいているので、適正である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	A	・申請金額が適正かどうかを審査するために、複数社からの見積を添付していただいているので、適正である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計	15.0 / 20.0	100点換算	75 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・地域の主体性、自主性の向上と、地域の活性化という観点から引き続き実施していく。				

総合評価(二次評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="radio"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="radio"/> 廃止の検討	<input type="radio"/> 完了
	・平成26年度を終期としている事業であり、執行内容を精査し、27年度以降の対応を検討する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23 当初	H24 要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	3,000	3,000	0	3,500	3,500
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	3,000	3,000	0	3,500	3,500

予算要求の概要	地域住民が自主的、主体的に取り組む公共性の高い地域づくり事業に対する助成
要求額増減理由	

①支所	
②本庁所管課(地域政策課)	
地域政策課	

財務部査定 の考え方	要求どおり アンテナショップ運営補助金を追加
市長査定 の考え方	財務部調整どおり

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	20999	地域要望対応事業	担当課	一之宮支所 地域振興課	内線	3411
予算	会計	1 一般会計	特別 位置 付け	A	合併前から実施されているイベント・行事	
	款	2 総務費		B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項	1 総務管理費		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業	
	目	9 企画費		D	その他事業	
市長の約束	合併のメリットを活かしつつ、それぞれの地域の特性を伸ばします。地域住民から信頼される支所運営を目指し、支所機能の強化を図るために、権限と予算の再構築を行います。					

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	一之宮町民	受益者数	2,634 人
目的	どういう状態にしたいのか(意図)	・市有施設の修繕等、地域からの要望に即応する。		
概要	事業の実施手法(手段)	・市道、水路など公共施設の軽微な修繕		
前回の評価からの改善・改革のポイント				

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	①	指標名	単位	目標・実績				
				H21	H22	H23見込	H24計画	
成果指標	算出根拠等	町内会要望件数	件	目標値	6	6	10	10
				実績値	8	3	10	-
成果指標	算出根拠等	件数	達成率(%)	H21	133	50	100	-
				H22				
成果指標	算出根拠等	事業実績金額	件	目標値	3,000	3,000	5,000	2,000
				実績値	2,375	798	4,000	-
成果指標	算出根拠等	件数	達成率(%)	H21	79	27	80	-
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者負担(使用料・負担金等)	(A/B)	H21	906	302	1,898	2,696
				H22				
コスト面	算出根拠等	受益者	一之宮町民 (B)	H21	2,620	2,641	2,634	2,634
				H22				
コスト面	算出根拠等	事業費(人件費を除き繰越・補正を含む)	(A)	H21 決算額	2,375	798	5,000	7,100
				H22 決算見込額				
コスト面	算出根拠等	歳出(千円)	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H22				
コスト面	算出根拠等	一般財源	(A)	H21	2,375	798	5,000	7,100
				H				

平成23年度事業評価シート兼事業別予算概要

事業名	土地借上料	担当課	一之宮支所 基盤産業課		内線	
				3431		
予算	会計	特別予算の 位置付け	A	合併前から実施されているイベント・行事		
	款		O	B	一般予算の上乗せとして実施されている事業	
	項		C	終期を定めて実施する事業・単年度事業		
	目		D	その他事業		
市長の約束						

1 事業の目的・概要(Plan)

目的	誰を(対象)	受益者数
	どういう状態にしたいのか(意図)	・施設用地借上
概要	事業の実施手法(手段)	
前回の評価からの改善・改革のポイント		

2 事業の推移・結果(Do)

活動指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	① 施設用地		㎡	目標値			
		実績値		475	474	473	-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	②		目標値				
算出根拠等			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
成果指標	指標名	単位	目標・実績	H21	H22	H23見込	H24計画
	①		目標値				
算出根拠等			実績値				-
算出根拠等			達成率(%)				-
コスト面	事業費 (人件費を除き繰越・補正を含む)		H21 決算額	H22 決算見込額	H23 予算額	H24 実施計画額	
	歳出(千円)(A)		717	894	670	447	
財源内訳	受益者負担(使用料・負担金等)						
	その他特定財源(国・県支出金・起債等)						
一般財源			717	894	670	447	
コスト指標	指標名	H21	H22	H23見込	H24計画		
	① 受益者1件当たり(円)(A/B)						
受益者		(B)					
算出根拠等							

3 分析・評価(Check)

評価項目	評価基準	評価	評価内容の説明など
① 事業の実施が市の総合計画・市長公約等の目標達成に結びつくか	A(2) 結びつく	B	・市長公約にある「活力ある街を創ります。」「住みやすい街を創ります。」の実現に結びつく。
	B(1) 一部結びつく		
	C(0) 結びつかない		
② 事業の実施に対する市民のニーズの傾向はどうか	A(2) 非常に多い、急増している	B	・施設利用の観点からすると、利用者は市内外に多くいるので、ニーズは高い。
	B(1) ある程度のニーズがある		
	C(0) 少ない、減少している		
③ 事業効果が市民全体に及ぶか	A(2) 市民全体におよぶ	B	・事業実施のための土地借上げは、地域経済への波及効果からすると概ね効果はある。
	B(1) 概ね市民全体におよぶ		
	C(0) わずかな受益者に限定される		
④ 事業の活動・成果指標の達成状況はどうか	A(2) 十分に達成している (100%以上)	B	・誘客宣伝などの観点からすると高山市への交流人口の増加につながっているため、概ね達成されている。
	B(1) 概ね達成している (75%以上)		
	C(0) あまり順調でない (75%未満)		
⑤ 成果向上・目的達成のための手法・活動内容の有効性	A(2) 有効である	B	・用地確保という点からすれば、土地賃貸借計画を締結しているため、有効である。 ・目的達成のための効果の有効性について再検証する必要がある。
	B(1) 概ね有効である		
	C(0) 見直しが必要である		
⑥ 事業実施における課題の解消、前年度の評価結果や指摘事項等への対応	A(2) 課題はない・解消されている	B	借上物件の必要性和市の統一基準に合った地主との用地交渉を進めている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑦ コスト削減に向けた改善・工夫	A(2) 課題はない・解消されている	B	・市の統一基準に合わせた地主との用地交渉を進めている。
	B(1) 改善・工夫に取り組んでいる		
	C(0) 対応していない		
⑧ 受益者1件当たりのコスト	A(2) 適正である	B	・重要な施設用地であるという観点から判断すると適正である。 ・市の統一基準に合わせた額の交渉が必要である。
	B(1) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
⑨ 成果に対するコスト(人件費も考慮)は適正か	A(4) 適正である	B	・重要な施設用地であるという観点から判断すると適正である。 ・市の統一基準に合わせた額の交渉が必要である。
	B(2) 概ね適正である		
	C(0) 改善が必要である		
合計		10.0 / 20.0	100点換算 → 50 / 100

4 今後の方向性(Action1)

次年度の実施方針(担当課評価)	<input type="radio"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	高山市としては必要な土地であるので、市の統一基準に合わせた額で折衝し、当該用地の確保を図る。				

総合評価(二次評価)	<input type="checkbox"/> 維持・改善	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="radio"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 廃止の検討	<input type="checkbox"/> 完了
	・市の基準に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。				

議会からの提言等	
----------	--

5 予算編成(Action2) ※予算要求時記入

事業費(人件費除く)	H23当初	H24要求額	増減	財務部調整額	市長査定額
歳出(千円)	670	447	△ 223	447	447
財源内訳					
国庫支出金					
県支出金					
起債					
その他					
地域振興特別予算	670	447	△ 223	447	447

予算要求の概要	土地借上料
要求額増減理由	単価の見直しによる
①支所	市の基準に近づくよう単価交渉の継続が必要
②本庁所管課(観光課・都市整備課)	施設の継続的運営のため、市基準額での土地借上料に近づくよう単価交渉を継続する必要がある。
地域政策課	地域振興特別予算措置期間に基準内の借地料となるよう交渉が必要である。

財務部査定 の考え方	要求どおり
市長査定 の考え方	財務部調整どおり